

### FROOME DOG

p.14

フルーム・ドッグのニックネームを持つチーム・スカイのリーダー Chris Froom をモンテカルロに訪ね、ライバル/ チームメイトの Bradley Wiggins のことからモナコのことまで、Ned Boulting によるインタビューと Taz Darling によるポートレート

### 100

p.42

100 回目となるツール・ド・フランスを 50 の数字によって表す企画。87 年はツール最多ステージ数の 25。エディ・メルクスのイエロージャージ最多着用日数はメルクスの 111。98 年フェスティナのスタッフ Willy Voet の車内からの EPO 押収量 234。

### THE FIRST TIME

p.60

イングランドからのファーストタイマー、Russel Downing のベルギー・クラシックレース参戦記。秀逸な写真の数々はファッションポートレートで有名な Robert Wyatt によるもの。

### IT TAKES TWO

p.85

William Fortheringham によるレギュラーコラム

### VITTORIA

p.86

プリマヴェーラ（春）と呼ばれるも季節外れの寒波により逆に歴史的となった、イタリアのクラシックレース“ミラノ・サンレモ”での VITTORIA サポートカーへの同行取材。各スタッフの紹介もある、一風変わったレース記。

### THE WATCHMAKER OF AVILA

p.116

アヴィラの時計修理人。1965 年のブエルタ・ア・エスパーニャ、ツール・ド・フランスで山岳王に輝いたキング・オブ・マウンテン：フリオ・ヒメネスが一人暮らす、トロフィーや新聞記事が飾られたアヴィラの自宅を訪ねる。

### THE BEAUTY OF UGLY

p.141

Matt Seaton によるレギュラーコラム

### CORSICA

p.144

コルシカ島での 3 ステージからスタートする第 100 回ツール・ド・フランス。そのコルシカ島で行われたクリテリウムレースを当地の絶景、街並みなども交えてレポートする。

### THE HEAD AND THE LEGS

p.178

ツール・ド・フランス生みの親とも言われる、レーサーでジャーナリスト、レースディレクターのアンリ・デグランジュ。1969 年までのマイヨ・ジョーヌにそのイニシャルが施されていた彼は、小説家でもあった。その彼のこれまでのバイオグラフィに新しい事実を加える歴史的な考察。

### CALLIN' THE SHOTS

p.199

Johnny Green によるレギュラーコラム

### SPEEDPLAY

p.200

波乱だったミラノ・サンレモ 2013 のゴールシーンは左からサガン、キオレック、カンチェラーラ。三人に共通するのが SPEEDPLAY 社のペダル。そのサンディエゴのオフィス。Richard Byrne の引き出しの中はクラシックペダル博物館。

### THE ONE

p.224

最後に 1 が付くゼッケンのジャージとさらに 10 を乗じたリーダーであることの重圧。その地位を満喫することになにか引っかけがあるならばその座を明け渡さねばならない。87 年山岳王 Robert Miller による "Tour de France" で "one" になることは。

